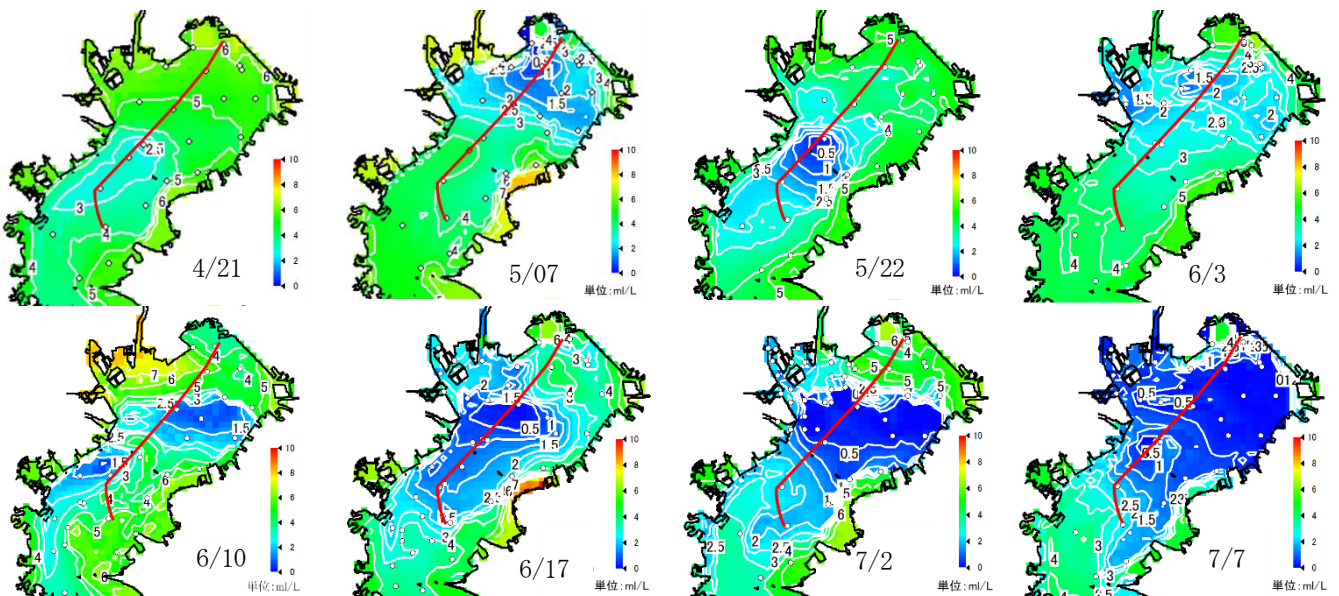


2025 年（令和 7 年）の貧酸素水塊 まとめ

2025 年の東京湾における貧酸素水塊（溶存酸素量 DO2.5ml/L 以下）の発生状況についてまとめました。調査日ごとの底層の溶存酸素量分布を図 1 に示します。貧酸素水塊は 4 月 21 日に初確認され、7 月上旬にかけて分布域が拡大しました。7 月 7 日には内湾の南西部を除き溶存酸素量が 0.5 ml/L 以下となり、強い貧酸素化が認められました。その後、7 月下旬から 8 月上旬にかけて北寄りの風による湧昇の発生で分布域が内湾の中央部に一時的に狭まりましたが、高水温と南寄りの風が継続したため 8 月下旬から 9 月中旬に再び拡大し、9 月 16 日には内湾のほぼ全域に貧酸素水塊が広がりました。以降、10 月上旬まで貧酸素水塊が内湾の広域に分布しましたが、10 月上旬の北寄りの風による湧昇の発生及び水温の低下に伴い大きく縮小し、12 月 2 日に消失を確認しました。

鉛直縦断面における貧酸素水塊の占める割合から算出した規模をみると（図 2）、湧昇により規模が小さくなった 6 月上旬と 8 月上旬を除き、初確認から解消までの長期間にわたり、直近 10 年の平均を超える規模で推移しました。最大規模は 9 月 16 日の 54% であり、9 月中旬における規模として直近 10 年間で最大となりました。10 月以降は湧昇の発生及び水温の低下に伴い規模は縮小し、10 月下旬には 0% となりました。

千葉県水質保全課によると、青潮は 7 月 31 日～8 月 4 日、9 月 24～26 日、10 月 8～14 日の計 3 回発生しました。



資料 5

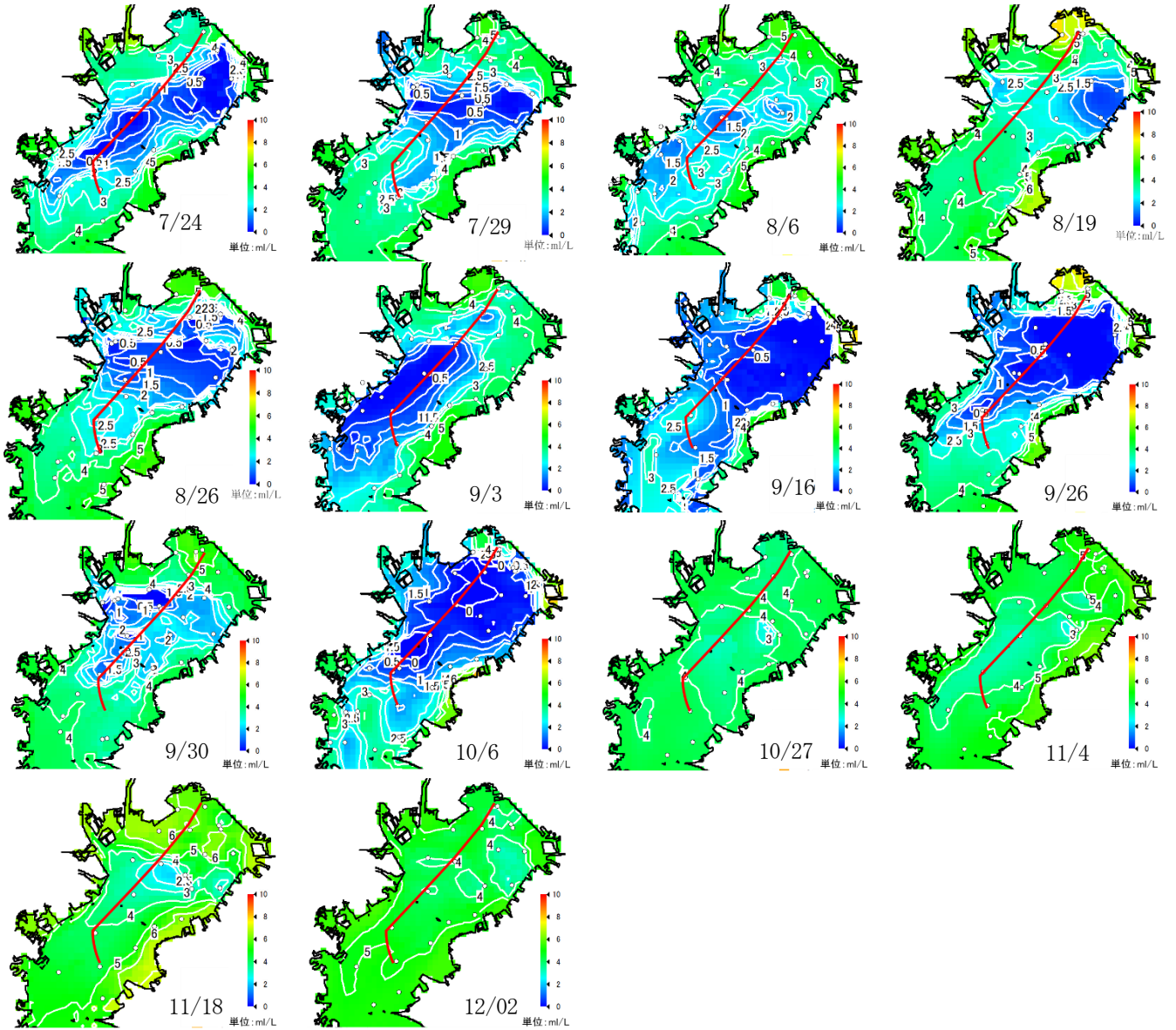


図1 底層の溶存酸素量分布 等値線の単位はml/L 赤線は縦断ライン

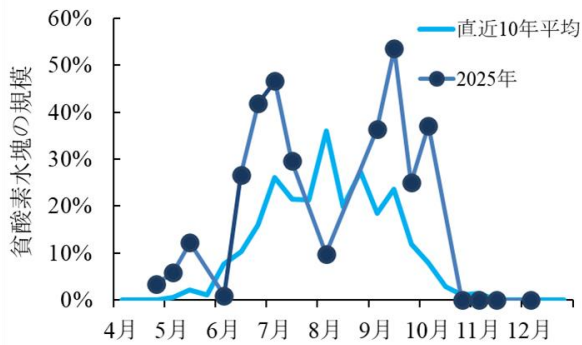


図2 縦断ラインにおける貧酸素水塊の規模の季節変化

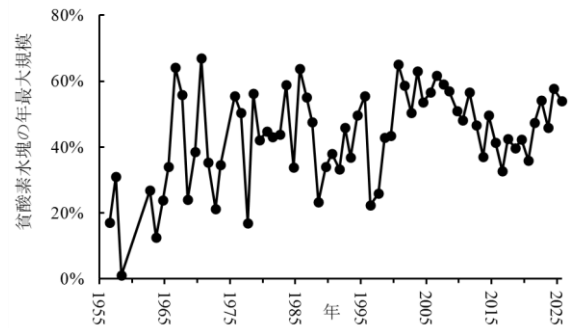


図3 年最大規模の経年変化